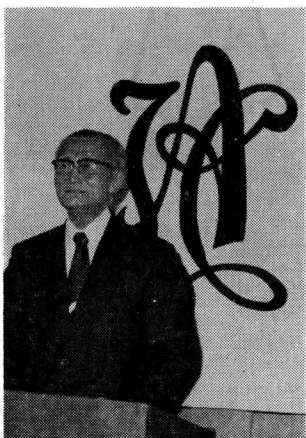


●昭和五十二年日本山岳会総会

新会長に西堀栄三郎氏

クラブルームの購入承認



挨拶する西堀新会長



昭和52年(1977年)

5月号(No. 383)

社団法人 日本山岳会
(J. A. C.)

定価一部 150円

目次

- 昭和52年度日本山岳会総会
新会長に西堀栄三郎氏
クラブルームの購入承認……………(1)
図書紹介……………(2), (3)
女性登山教室
わたしの草と木の絵本
ヒマラヤを目ざした越中人たち
日本風景論(上, 下)
山岳絵画展出品作……………(4)~(7)
ダーズリン便り(高橋 照)……………(8)
自然保護情報
ゴミ持ち帰り運動の提言……………(8)
「深田久弥氏終焉の地」記念柱
について(山村正光)……………(9)
エリック・シプトンを悼んで
(島田 巽)……………(3)
お知らせ……………(9), (10)
会務報告・ルーム日誌など……………(10), (11)
カット/松本慎太郎・谷アネ子

西堀新会長の挨拶

計五十坪で今年中に完成の予定。国鉄市ヶ谷駅から徒歩七分、同四ツ谷駅から徒歩九分である。購入価額は七千万円、内装などの諸経費を含めて七千五百万円。資金調達法は、五千万円の外部銀行からの借入れ金、二千万円の企業、会員の寄付金と、五百万円の会費金を見込んでおり、「ただちに募金活動を開始する」ことを強調された。

五十年度の「西堀新態勢」、理事二十人、監事二人、評議員二十人は次の通り決定、代表して西堀新会長から挨拶があった。

「私も若いころから大自然を愛し、知ろうと努力し、恵みを受けたいと思ってやってきました。山岳は、その大自然の象徴と感じており、伝統ある日本山岳会はその中心となる組織であります。その代表を務めさせていただくことになり光栄と思っております。皆様の支援を受け、全力を尽して御期待に添いたい所存であります。ありがとうございます(拍手)。」

その後宴会に入り、午後九時前終了した。

新ルールの概要

望月副会長による新ルールの経過報告に入り、その新クラブルームは「サンビューハイツ四番町」マンション(東京都千代田区四番町五十四)、五階建鉄筋の一階中央部、事務所および図書室、書庫、

望月副会長による新ルールの経過報告に入り、その新クラブルームは「サンビューハイツ四番町」マンション(東京都千代田区四番町五十四)、五階建鉄筋の一階中央部、事務所および図書室、書庫、

望月副会長による新ルールの経過報告に入り、その新クラブルームは「サンビューハイツ四番町」マンション(東京都千代田区四番町五十四)、五階建鉄筋の一階中央部、事務所および図書室、書庫、

望月副会長による新ルールの経過報告に入り、その新クラブルームは「サンビューハイツ四番町」マンション(東京都千代田区四番町五十四)、五階建鉄筋の一階中央部、事務所および図書室、書庫、

▽会長 西堀栄三郎(新)
▽役員
△片山全平

山をきれいに コミは持ち帰ろう

日本山岳会五十二年通常総会
総会は四月二十二日午後六時から東京都千代田区神田駿河台3-6の全電通労働会館会議室で開かれ、新会長に西堀栄三郎氏、副会長に望月達夫、折井健一氏が選任されたほか、会員が久しく待望していた本会自前のルームの購入とその全容が初めて望月達夫副会長から明らかにされた(在籍会員数三四七四、出席一三

七)内委任一二五五。総会は、前会長の今西錦司氏からの挨拶のあと、会員の移動の説明が行われた。名誉会員十人、永年会員二十六人、終身会員五十八人、通常会員三千三百八十人(三月三十一日現在、五十一年度新入会員は百五十三人、復活会員が九人、退会十四人、物故者十九人、除籍者は九十五人となつてい

る。引き続き物故者、細井孝雄、関田美智子、石川紘一、城谷一誠、阿岸充穂、府川裕、青木昭三、木村武男、又木周夫、馬場忠三郎、藤田弥一郎、日高信六郎、広沢伝一、藤島敏男、酒井弥二郎、武井栄四郎、可知邦成、五十嵐寛、山田多市の以上十九氏の冥福を祈って黙祷が捧げられた。続いて浜野理事から五十一年度事業報告(次号)があり、特に「山岳」70号出版について、遅延の説明があった。同理事による五十二年事業計画(案)の主なものは次の通り。

集会は、報告会、講習会、シンポジウムなど二十回予定されているが、今年度のウェストン祭は六月五日上高地で、年次晩餐会は十二月三日(場所未定)とそれぞれ決定した。また今年二月末、丸善で開かれた会員による「山岳絵画展」は好評のうちに終わったが、五十二年度も引き続いて開催を予

▽副会長 望月達夫(再)、折井健一(新)

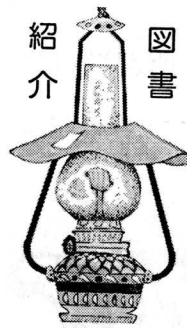
▽理事 皆川完一、小倉董子、山本健一郎、高遠宏、黒石恒、田村俊介、橋本清、浅田治男、大森久雄(以上再任)、鈴木郭之、大森薫雄、宮下秀樹、倉知敬、中川武、越田和男、牧野内昭武、嵯峨野宏(以上新任)

▽監事 飯野亨(再)、村山雅美(新) 敬称略

(司会は浜野吉生理事、議事録署名人は山崎安治、金坂一郎両氏が選任された)。

図書

紹介



女性登山教室

小倉董子 著

書名通りの、女性向登山入門書で、内容は次のように分けられている。1 女性と山登り、2 山登りは計画から、3 山登りの服装と装備、4 山登りと食糧、5 山登りの実技、6 山でのおしゃれと健康管理

理、7 自然とのふれあい、8 Q&A ンドA こんなときどうする、さらに「登山者のための観天望気」が飯田睦治郎氏によって、付録の一項に「ドキュメント女性登山」として、村井米子、川森左智子、今井喜美子、牧野文子、奥山和子、坂倉登喜子、細川沙多子、黒石恒、川井耿子、渡辺節子、田部井淳子各氏の一文があり、また「日本の女性登山クロニクル」の題名で佐藤テル、黒田初子両氏、著者が執筆している。本文は小藺江圭子氏のイラスト入りで、ごく平易に登山入門の基礎が余すところなく述べられている。

成美堂出版刊、B6判二五ページ、一九七六年十一月発行、九〇〇円。(横山厚夫)

わたしの草と木の絵本

坂本直行 著

この二色刷りの「絵本」は楽しい本であると同時に、まことに心の暖まる本である。この画伯の山の絵を好むとともに、その植物スケッチを愛する人は多いにちがいない。私などもその一人だが、前著「私の草木慢筆」(昭和三十一年七月・紫紅会刊)から十二年ぶ

りに、直行さん独特のスケッチに接することができた。その点、大いに楽しいわけだが、とくに「心暖まる本」といったのは、この「絵本」の成立までの経緯のすがすがしさのためである。



カット/松本慎太郎

の誕生については、著者の「まえがき」とともに、その生みの親の小田豊四郎氏、育ての親の「サイロ」の会同人による序文によって語られている。要約すると、帯広市のお菓子屋さん小田豊四郎氏が収益の社会還元を志して、十勝地方の小中学校の先生がたと協議の末、生徒たちから詩作をつづって月刊の詩誌を出すこととし、十勝農業のシンボルであるサイロを誌

■内容見本呈



日本風景論 初版完
全覆刻
志賀重昂著 ■別冊解題/A5判一五〇頁

■別冊解題
I 父の横顔/志賀重昂
II 解題
・山と日本風景論/山崎安治
・評伝・志賀重昂と日本風景論/猪瀬直樹その他
■近代的視座にたつ自然観照と山と登山を論じた先駆的名著。
定価四五〇〇円

鳳出版

東京都文京区本郷3-32-5中川ビル
〒113 電話811-5117 振込4-154867

名として昭和三十五年一月に創刊の運びとなった。

この雑誌の表紙画のために、小田さんは豊似の原野に直行さんを訪ねたわけだが、「小田さんが社会奉仕のための仕事ならば、私もそのつもりで引受ける」ということになり、創刊号から休むことなく表紙とカットが描きつづけられた。昨年九月に第二〇〇号に達したが、十七年にわたる長い年月、激しい労働のなかでの徹夜の執筆も少なくなかったという。

この同人たちの熱意は、初期の時代に「サイロ」の恵贈を受けていた私などにも強くひびくものが

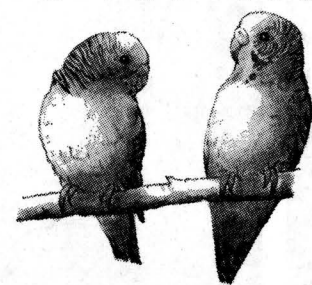
あったが、市販の雑誌ではないので、広く衆目にふれるというわけにはいかないのが惜しまれた。幸い、その「サイロ」誌の感じを想い起させる二色刷りで、この「絵本」となったのはよかった。内容は山の草・野の草(一八〇山の木・野の木(二二〇高山の草(二〇〇高山の木(八〇に分けられ、対向ページに説明が付されている。それは、かつて表紙の言葉として書かれたものに、新たに全面的に筆を入れたと記されている。

昭和五十一年十二月 茗溪堂刊
B変型判 一四〇ページ 定価一二〇〇円 (島田 巽)

エリック・シプトンを悼んで

島田 巽

エリック・シプトン氏が三月三十一日、六十九歳で死去したというロイター電は、あまりにも簡単だったので、詳しいことを知りたいものと空便のタイムズ紙に何度も眼を通したが、死亡記事が見つからない。ようやく四月五日付の同紙にハント卿が寄せた追悼文が掲載されたが、これは文字通りの追悼で、



カット/谷アユ子

シプトンの生涯を評価するとか、その晩年を語るといったことには全く触れていないのが惜しかった。ただハントの文章のなかでは次の点が注目された。

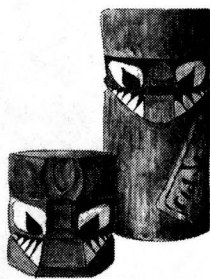
ハントは一九三五年にはじめてシプトンに会っている。カラコラム遠征から帰った直後で、翌年のエヴェレスト遠征に参加を求められたが、健康診断の結果ダメになった。このためシプトンはひどく当惑して、ハントのために気をつかったという。一九五二年には全く逆のことが起ったとハントは記してい

る。これは周知の通りシプトンが引受けたばかり思っていたエヴェレストへの隊長を、ヒマラヤ委員会からハントに引受けるようにいわれたことで、シプトンの落胆はかつての自分の失望どころの比ではなかったろうと述べている。それなのにシプトンは一言の不平も口にせず、他のだれよりも、あの二十一年前の登頂成功への道を開いてくれたと感謝している。そしてシプトンをフランク・スマイス、ウィルフリッド・ノイス、ドガール・ハストンら同時代の三人と並べ、いずれも俗世を超越して地上の遥かなる地域を強く求めた点で相通するものがあるとしている。

今後シプトン氏についての回想はいろいろ記されるであろうが、とりあえず、ロード・ハントのこの追悼文を紹介しておく。

ヒマラヤをめざした越中人たち

橋本 広 著



カット/谷アユ子

富山県人でヒマラヤ入りをした人たちの業績をたねんに調べ、まとめあげたユニークな本である。一つの県だけのヒマラヤの記録ではあるが、報告書のないヒマ

ラヤ行もかなりあり、他界されたリ、消息不明の人たちもあって苦労したと著書はあとがきで述べているが、それだけにこのように一冊の本となってみると、その御苦労は十分むくいられたといえよう。

内容は石崎光瑠のヒマラヤ登山を初め、堀田弥一のナンダコット、旧制富山高専・新制富山大学OBの活躍、荒木幸子・種谷由美のエヴェレストなど三十七峰にわたって詳しく、ヒマラヤで活躍した富山県人の足跡がしるされている。

日本風景論 (上・下)

志賀重昂 著

このあまりにも有名な本については、何ら紹介もいらないと思うが、今度、講談社から文庫本として、上・下二冊で発行されたので、一応御紹介しておきたい。岩波文庫のものは、小島鳥水の解説付きで戦前から現在まで何回となく発行されていて、文庫本としても古典的になったが、何分同じ紙型を使用しているらしく、挿画が不明であり、活字の方も不明な箇所がでてきている。

中でも注目を引いたのは、石崎光瑠のヒマラヤ登山で、大正六年五月、カシミールにあるマハデューム峰登頂の模様がくわしく記されており、そのヒマラヤ旅行記「印度堀窟精華」のことも紹介されている。この本のことには小生も今度初めて知った。

昭和五十一年四月十日窓出版会発行 二〇五ページ、頒価(送料共) 一六〇〇円、希望者は富山市田中町十五の著者あて申し込めばよい

(山崎安治)

1977 ALASKA, CANADA, U.S.A.

ヨセミテ・バックパッキングとMade in U.S.A.

8月7日(日)～8月15日(月) 9日間 ¥320,000(全食付)

カナディアン・ロッキーズ氷河の峰登頂

8月5日(金)～8月13日(土) 9日間 ¥370,000(全食付)

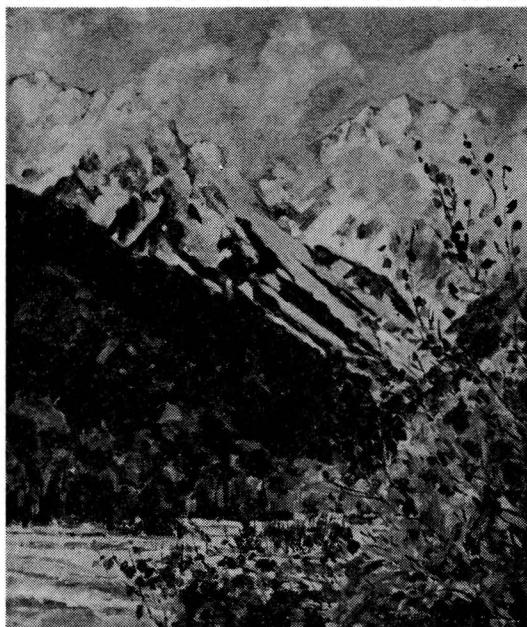
他にアラスカ氷河の峰、マウント・レニア登頂、冒険旅行など

企画 株式会社ツアーズ 〒112 東京都文京区後楽1-1-17 主催 株式会社日本
担当 黒川 恵(日本山岳会、カナダ山岳会会員) 電話 03-815-9273 一戦867号

しかし、今度の講談社版はその点は活字も挿画もはつきりとして読みやすい。また、かな使いもすべて現代風に直して、現代の青年にとっても非常に読みやすくなっている。望むべくは、解説があまりに簡単であり、志賀の思想あるいは登山界に占める位置などについての解説が中途半端になったきらいがある。もう少し丁寧な解説があれば、読みにくい明治期の文章の意味も、現代の若ものにもわかりやすくなったであろう。

講談社刊 昭和51年9月10日発行、上巻 一九七ページ、下巻 一八八ページ、各二六〇円 (水野 勉)

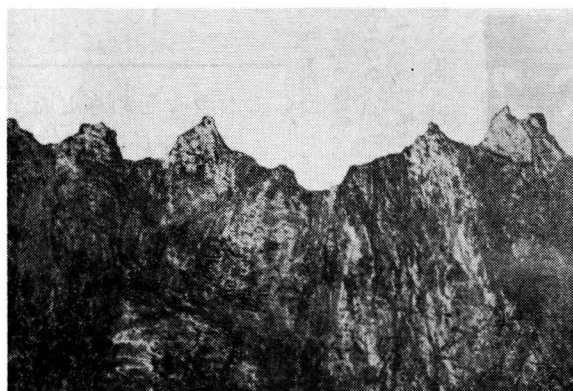
山 岳 絵 画 展 出 品 作



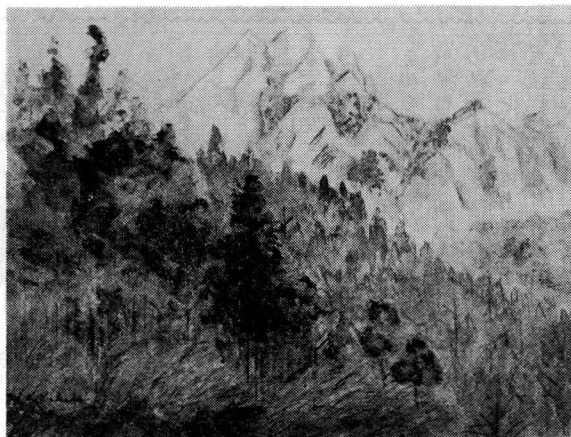
▲「春の梓川」 渡辺照人



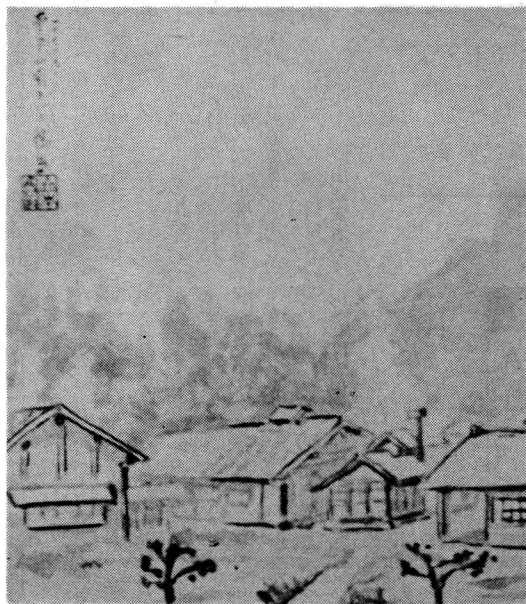
◀「ナンダ・デヴィ内院」 関 章司



▲「若別岳」 一原有徳



▲「金山からの瑞牆山」 武田満子



▶「大井川樫島」 山本朋三郎



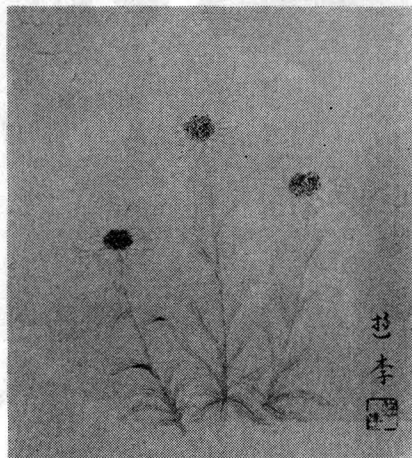
◀「シエルバの子供」 中恒淑子

▶「白馬残照」

鈴木正俊

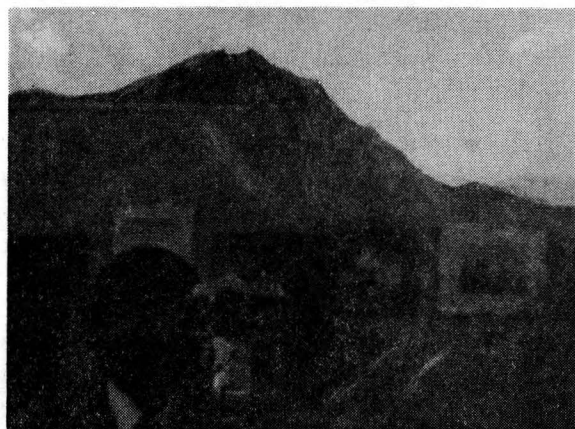


▼「エーデルワイス」 坂倉登喜子



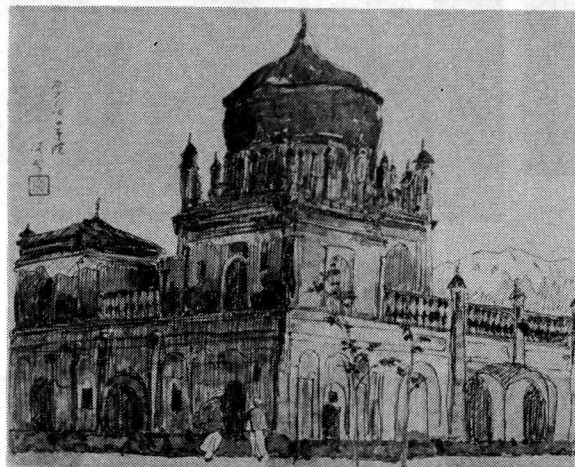
▶「谷川岳」

吉田久兵衛



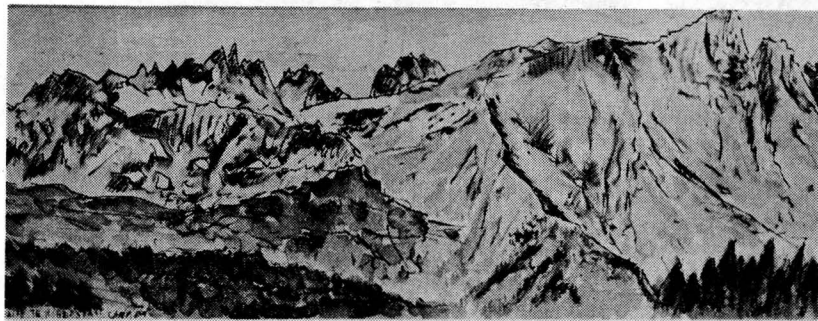
▶「カプールの寺院」

橋本 広



◀「牝牛帰家」

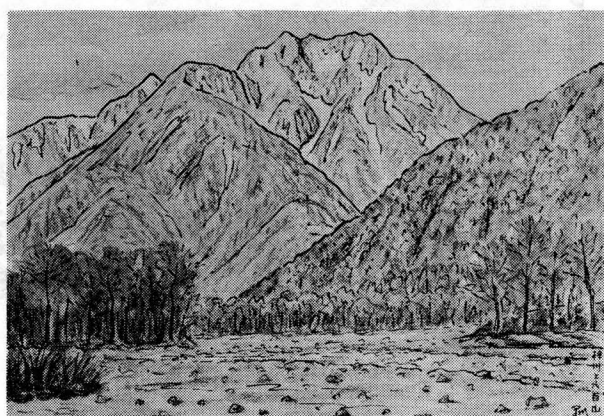
辰沼広吉



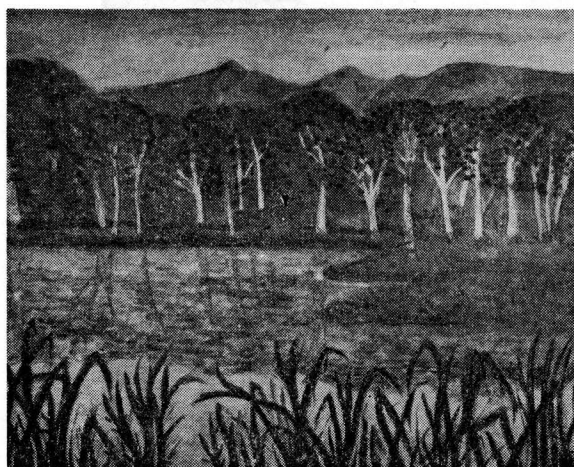
◀「カナディアン・ロッキー」

設楽芳夫

▶「山の花」 遠藤光男

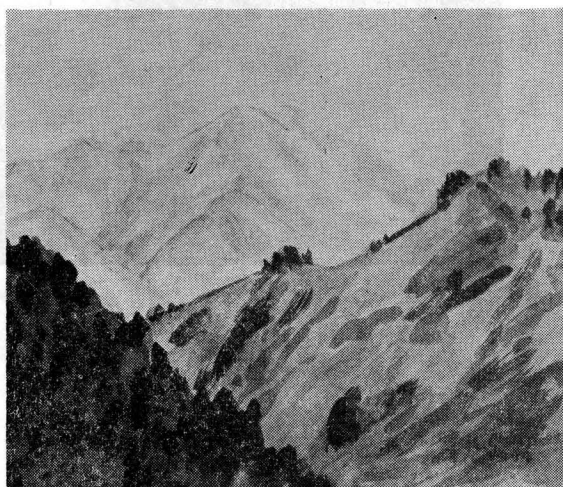


▲「奥上高地晩秋」 早川義郎

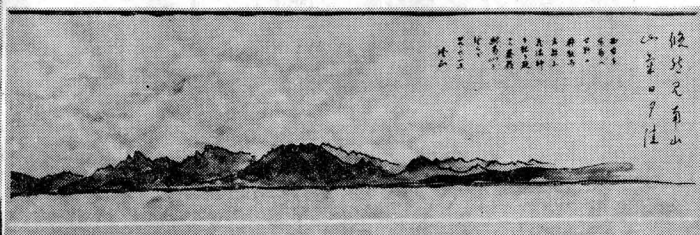


▲「知床五湖」 小倉董子

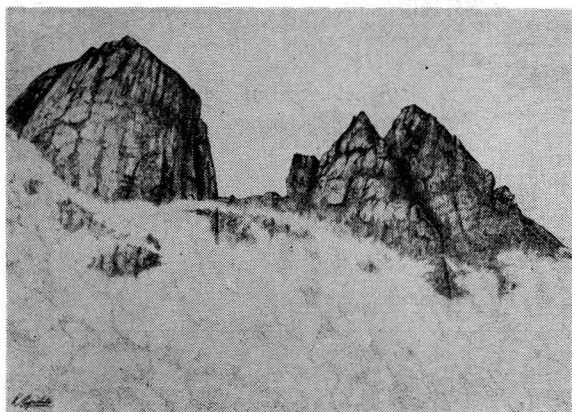
▼「飯豊の秋」 後藤幹次



▼「玄奘三蔵を想いつつ」 吉阪隆正

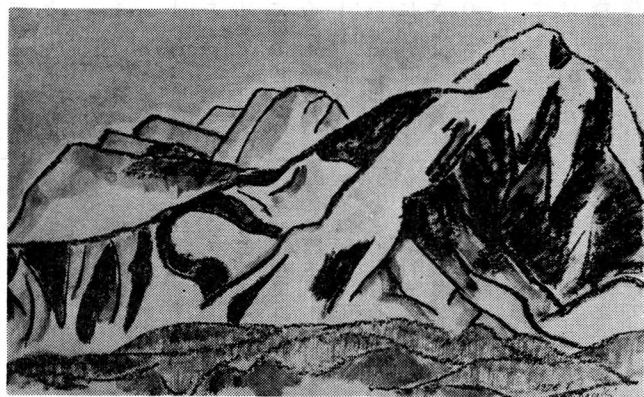
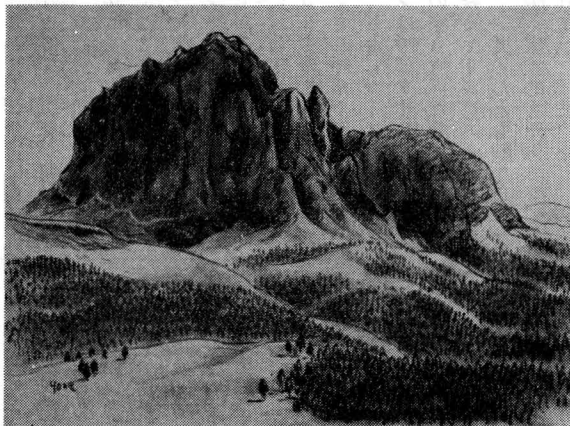


◀「パンプーチ」 黒石 恒



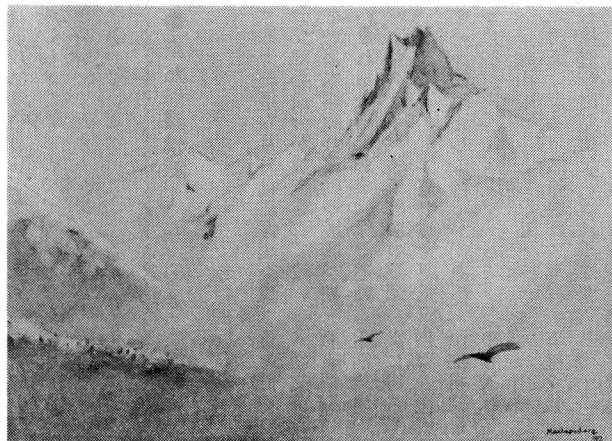
▲「岩と雪」 宮下啓三

▼「サッソ・ルンゴ」 牧野四子吉

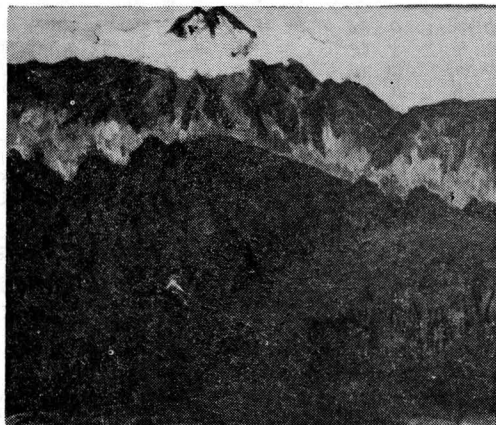


▲「冬の船形連峰」 柴崎 徹

▼「マチャブチャリ」 山里寿男



▼「甲斐地藏岳」 長島春雄



▼「北横岳より八ヶ岳連峰を望む」 榎本 進



絵画展の写真撮影は、今井幹夫氏の好意によるものです。会場の照明の都合で一部に光線の反射が入ったものがあり、また展示の都合で笠原正明、神崎忠男、高遠広、山村正光各氏の作品が撮影もれとなって、誌上紹介できませんでした。ご寛容ください。

☆海外通信☆

ダーズリン便り

高橋 照

☆海外通信☆

JAC、土曜会の皆さま。

明けましてお目出度うございます。もうこのダーズリンに来て一週間になります。天気が毎日曇っていて、まだカンチエンジュンガの姿に接しません。ヒマールが見えるまでここに頑張ります。

ヒマラン・マウンテンアリン・インスティテュートのプリンス・インスティテュートのプリンスさんには自宅に招待されてシクやパンガリーのこの地域の有名人夫をたくさん呼んで御馳走になりました。しかしカーストの違いかテンジンは呼びませんでした。テンジンの家も立派な家で、個人が収集したミュージアムが家の中にあります。奥さんとも顔なじみなので、暖か家族的雰囲気でもなしてくれました。彼の子供たち

(三男三女)ともすぐく親しくなり、毎日子供たちと町を散歩しています。

私は英語が駄目なので、もっぱらネパール語とヒンディー語で話すので、テンジンはじめ、奥さんや子供たちが皆うちとけて心を許したようになります。

テンジンがいうには、エア・インディアの招待での日本旅行は、スケジュールがハードで自分自身の時間がなく、かみさんにはかわいそうだったと私に話します。するとすかさずかみさんは、主人はもうすでに老人なのでそんなことをいっているが、もうすっかりガルドイナ(仕事をしない)といえます。テンジンははいくつになつたと聞くと六十三歳だということでそれは私と同じ歳ではないか、一九一四年の生れか、というところだといひ、女房をいつでも借すと大笑いになりました。奥さんのダリさんはタミの出身で、彼女の父はアン・ノルブです。

またH・M・Iのインストラクターをしているナワン・フィンゾーもやってきているいろの話になりました。彼が生徒十五人ほどに岩登りを教えているところを見ましたが、ネパール・シェルパなど及びもつきません、アン・ツェリンI(メルクルの隊でナンガパルバットで足を失ったシェルパでテンジンの大先輩、一九六二年私のジュガールの隊のサードー)には

まだ会っていませんが、そのうち連絡が取れるでしょう。ナワン・ゴンブにもまだ会っていません。今回ダーズリンに来た理由は、私のネパール・ビザが三カ月経って切れたので、取りなおすためカルカッタに出て来て、急に気が変わってここへ来たわけですが。

ネパールでは九月に入国し、十月には西ネパールのシリガリドーティに行き、アビやサイパルを手のとどくところで眺められるカプタルにも行きました。ここからガルワル・ヒマラヤも良く見え、ナンド・デヴィの双耳峰が見事でした。カプタルは約三三〇〇mのカシミールと同様美しい秘境です。私はダマイの馬方一人をつれて一人で行きました。次は十一月から十二月にかけてムスタンの十二カ村バーラガウンに行きました。特に十二カ村の主都のジャルコットや、ムクチナートはすばらしいところです。帰りはドウラギリI峰の南壁直下、東南稜を約五三〇〇mまで試登しました。南壁は圧観です。一気に二五〇〇mの道のな一枚岩の草付きを直登するので、私の歳ではかなりきつい山行でした。尾根を乗越すとカリパラという美しい氷河湖があります。この旅も一カ月にわたりました。タツコラ以北は全部馬で通しました。これも私の従者のプラナ・プラザト・シェルチャンというタカリを一人連れ通しました。

ネパールにはいま日本から観光客が押しかけているので、静かになった時分にまたカトマンズへ帰ろうと思っています。

●自然保護情報

ゴミ持ち帰り運動の提言

五十一年六月、自然保護委員会支部委員会が設立されて、いよいよ本格的な運動の展開が期待される今日である。保護運動のネックは、大規模破壊の筆頭であるスーパー林道や観光開発をいかに阻止して行くかである。

一方山のゴミともなると「ゴミ汚染による自然破壊はスーパー林道の比ではない。ゴミは埋めれば事は済む」と、れっきとした山屋、山岳パトロールの人達から耳にする。このような短絡した考えでは国内のみならず日本の外国遠征隊のゴミ汚染行為は解決しない。

ゴミ持ち帰りこそ国民一人ひとりが取組める極めて教育的な自然保護運動であり、すべての保護運動の第一歩といえる。ここで当委員会に提言して持ち帰り運動推進を期待したい。

(一) 全国的組織運動確立と強化
①岳連、山協、自然保護各団体等、可能な限りの現有組織を生かし、組織登山者から県レベル、更に全国組織へと啓蒙と強化を計る。

②文部省、各教育委員会等の教育機関に実情を訴え、日常生活環境の美化意識を高めると共に野外教育活動における集団指導の徹底、特に全国高体連登山部組織を生かした指導強化を申し入れる。

(二) 山岳地域のゴミ回収システム確立強化を行政と業界へ訴える。

①国立公園内の営業小屋のゴミ処理の正常化を最低限目標とし、特別保護地区内の山小屋、幕営地等をリストアップして、問題地域へ当委員で現地調査に乗り込み、行政業界に強力な申し入れを行う等。

「ゴミ汚染によるわずかな自然破壊すら許してはならない」という基本的な姿勢が大きな運動に発展するものである。

ダーズリンでレプチャ語の文法の貴重な本を手に入れました。またカトマンズに帰ったらお便りします(七六・一二・三〇)

最後に本年の新潟県山のゴミ会議の清掃登山計画を紹介し、多数の参加を期待します。

飯豊連峰清掃登山 7/23~26
平標山(谷川連峰) 10/1~2

(越後支部 藤田英治)

「深田久弥氏終焉の地」記念柱について

山 村 正 光

本年四月三日、深田志げ子さんから、金沢、大聖寺の俳句仲間、茅ヶ岳追悼山行に同行した。その際、志げ子夫人との雑談の中で、何らかのメモリーを現場に残したいと申し上げ、大げ

さなものにならないようにと、お許しをいただいた。一週間後の十日、図書委員会有志による七回忌記念登山に御一緒させていただき、八十センチたらずの木柱を現場に建て、花を供

え、お酒をそそぎ先生をしのんだ。おもてに「深田久弥先生終焉之地、うらには「七回忌追悼山行 日本山岳会有志之建」と



▶茅ヶ岳山頂からの金ヶ岳と八ヶ岳／宮下啓三
頂上からのこの風景を、深田さんは眼にすることがなかった。



▶「深田久弥先生終焉の地」碑前にて
同行者／前列左から山本稔、池田智津子、山崎安治、金坂一郎、大森久雄、杉山都子、後列左から三井茂子、山村正光、中島敏行、山岸靖彦、北島光子、近藤信行、撮影／宮下啓三

●お知らせ

山 菜 勉 強 会

片岡博氏(「山菜記」著者)を講師に、山菜の種類、料理法などを学びたいと思います。

日時 6月1日(水) 18時30分
場所 日本山岳会ルーム

山 菜 山 行

日時 6月11日、12日
場所 越後浅草岳
参加費 六〇〇〇円(宿泊費・山菜料理、飲み物、マイクロバス

代金を含む)

集合 6月11日午前10時上野駅公園口または現地(午後4時)

宿泊 新潟県北魚沼郡入道瀬松屋旅館

同行 片岡博氏
申込み 電話またはハガキで山岳会事務局まで。詳細は参加者に通知します。

以上・日本山岳会委員会

上高地山研開所と
利用料値上げのお知らせ

雪にうずもれた山々にも、よう

売場ご案内

最新入荷及び好評の本

- ◆全国一等三角点 968 点の所在地一覧(水野公男) 400円
- ◆第14回・海外登山技術研究会報告—50年度版—(日本山岳協会) 1,500円
- ◆韓国・智異山登山報告書1972(京都山友クラブ)700円
- ◆雨飾山(直江津雪稜会)600円
- ◆笹ヶ峰・火打山研究(直江津雪稜会)1,100円
- ◆越後志水雑記(ヒュッテ・アルピレオ)1,000円
- ◆もんたにゆ22号・1977春—フオリナー・海外特集号—400円
- ◆詩集・山の風物誌(伊藤秀五郎)1,400円
- ◆マナスル1974—日本女性マナスル登山隊報告書—(同人ユングフラウ)3,400円

茗溪堂

＜山の本の売場＞ お茶の水店三階
営業時間平日・午前10時30分より午後8時
日曜祝日・午後0時30分より午後6時30分

やく春が訪れてまいりました。
五月十四日(土)、山研が開所
されます。会員各位のご利用をお
待ちしております。
管理人津村夫妻も老いてますま
す元氣、皆さまを温かくお迎えし
たいと、張切っております。

独立採算を目標に運営しており
ますので、諸物価の高騰にともな
い、利用料の値上げのやむなきに
いたりしました。

四月八日の理事会において、次
の通り承認されましたので、ご協
力をお願いいたします。
五十二年度

会 員 一、五〇〇円
非会員 二、五〇〇円
小学生 一、〇〇〇円
子 供 八〇〇円

山研運営委員会(小倉)

ウェストン祭のお知らせ

恒例のウェストン祭、今年は六
月五日(日)午前十時から、長野
県上高地ウェストン碑前でおこな
われます。新緑が美しく、化粧柳
の柳絮が雪のように梓川の河原を
舞う最良の季節です。お誘いあわ
せのうえ、お出かけください。

集合 六月四日午前七時
島々谷入口

第9回藤江幾太郎新作展

時・6月24日〜29日

所・東京新宿小田急本館7階
美術サロン
大雪、八甲田、剣、尾瀬ほか東
京周辺の山の絵25点(油・50×3
号)を、他にネパール作品を特別
陳列。

雪崩文献目録 第一集

雪崩についての文献目録は、従
来まとまったものを見かけなかつ
たが、このたび日本雪氷学会の雪
崩研究者有志の手によって、その
第一集ができ上がった。今回は和
文文献のみであるが八四四編を輯
録することができた。一九七四年



カット/松本慎太郎

までの文献で、古いものは一九二
三年に遡る。

この冊子は雪崩に関心を持つ全
ての人が、雪崩およびその研究に
ついて知りたいとき、その助けと
なることを目的として編集されて
いる。だから文献は学術的なもの
に限らず、広範囲にわたって集め
られている。

今後この続編の発行が計画さ
れ、その際には欧文献も輯録す
る予定である。第一集から洩れた

文献はいくつかあるようだし、そ
のほかの不備も見かけるが、各位
の御指摘によって完璧を期した
い。これが単なる目録に終らず、
文献の抄録集にまで発展すること
を強く希望したい。

一九七七年二月、自然災害科学
北海道地区資料センター室発行
B5判四四ページ。

入手希望者は、団体用か個人用
かを明記し、配付手数料三〇〇円
(切手でも可)を添えて左記に申
込まれたい。

〒一一三 文京区湯島一六一

日本山岳会遭難対策委員会

なお雪崩の国際分類(英文、雪
氷三六巻四号の別刷)が少数残っ
ているので、同じく委員会に申込
まれたい。先着順に配付される。
(金坂一郎)

三水会、

竹寺現地集会報告

二月十九日午後二時、西武池袋
線改札口に集まるもの六名。前日
とはうって変わったポカポカ陽気だ
ある。飯能で斎藤(建)さんと落
ち合い、今回の楽しい旅がはじま
った。

雪の状況が心配されたが、タク
シーは竹寺まで入ってくれという
う。一行七名早速分乗、竹寺に向
う。

竹寺での現地集会が提案された
のは昨年末の集会の折であった

が、最近精進料理でとみに有名に
なった竹寺、多年この地域を歩か
れ、大野住職と昵懇の坂倉さんな
らでは、こう早く実現できなかつ
たに違いない。

竹寺は天王山八王子という名が

寺号で、宗派は天台宗だが、神仏
混合時代の名残りで赤い鳥居が立
ち、本堂は神殿造りである。牛頭
天王を祭る。竹寺の由来である竹
林はさすがに見事であった。
一行特別室の七賢の間に招じら
れた。

大野住職に色々話しを伺って
いるとやがてお食事の用意ができ
ましたとの声、別室には趣向をこ
らした精進料理の数々、竹筒に入
った薬湯も出る。筆者薬湯に浸り
すぎたため、料理の素材を失念し
たのは申し訳けない。

沼倉さんは所用で雪の夜道を帰
られたが、楽しい語らいは七賢の
間に再び移り、なかなかつきな
かった。

翌日も前日に増しておだやかな
好天に恵まれる。朝食後ゆっくり
と奥宮を経て鐘撞堂に登る。名栗
川西側の山々の眺めがすばらし
かった。いったん奥宮に戻って豆口
峠に向う。雪がやわらかく急坂で
シリセードも出る。

豆口峠は薄暗い松の林の中にあ
り、三角形のトタン屋根の休憩所
があった。左八王子竹寺みちと刻
まれた石の道しるべがかわいい。
新館に降りる。途中陽だまりを

求めて昼食。それぞれ持参のご馳
走に舌つづみ、ノドつづみをう
ち、つきめ語らいに名残りを惜み
つつ飯能へのバスの人となった。
竹寺で薬湯を多飲した罰として
この悪文を書かされた次第。

〔参加者〕沼倉寛二郎、坂倉登喜
子、斎藤健治、小原晴子、進藤波
男、池田智津子、高田真哉(順不
同、敬称略)

(高田真哉)

●映画と講演の夕

探検の先蹤者たち II

— 幻のフィルムから —

左記により映画と講演の会を開
きます。

△白瀬南極探検隊の記録▽

明治43年〜同45年撮影の貴重な
フィルム。

△積雪期北アルプス初縦走後編▽

昨年の「探検の先蹤者たちI」
で前半を映写、好評を得たものの
後編。解説、山崎安治氏。

△講演▽西堀栄三郎氏(南極の話)
日時 七月十三日(木)

場所 東京・千代田公会堂

入場料 五〇〇円

入場券は日本山岳会事務局また
は同会集委員会にお申込みくだ
さい。電話での予約も可。当日、
直接会場へ行かれても入場出来な
いことがありますので、あらかじ
め入場券を購入してください。

日本山岳会集委員会

会務報告

3月理事会

(3月4日午後六時半
本会ルーム)

▽出席者 今西会長、織内、望月各副会長、浜野、高遠、近藤、小倉、皆川、原、大倉、黒石、田村俊、橋本、浜口各理事、小原、佐藤、浜野吉、折井、宮下各評議員 委任 山本健、山本良、大森、神崎、浅田各理事

▽議案

- ・昭和52年度事業計画 (案) 承認 (高遠)
- ・昭和52年度収支予算 (案) 承認 (高遠)
- ・定款一部改正 (案) 承認 (浜野)
- ・新ルームの件 (望月) ルームの部屋割等について的小委員会案検討 承認
- ・UIAAの件 (浜野) 実行委員会へ立候補申入れ出す 承認
- ・スイス・アルプス名画展後援の件 (浜野) 承認

▽報告事項

- ・青年懇談会 (大倉)
- ・ドイツ山岳連盟との交流計画中
- ・指導 5月下旬に上高地山研を利用し、岳沢で登山講習会開催
- ・山岳編集 (近藤)
- ・発行が若干遅れる
- ・図書 (近藤)
- ・山岳絵画展は盛況
- ・高所登山 (原)
- ・ヒマラヤを語る会は盛会であった。52年度にはガルワールに登山隊を派遣する予定

ルーム日誌

(52年 3月)

- 3日(木) 常務理事会
 - 4日(金) 理事会
 - 5日(土) 絵画展親睦会
 - 7日(月) 集委会員会
 - 8日(火) 山岳編集委員会
 - 14日(月) 集委会員会
 - 15日(火) 山岳図書を語る夕べ
 - 16日(水) 三水会「地酒を語る」
 - 17日(木) 山岳史懇談会
 - 24日(木) 山研委員会・自然保護委員会
 - 26日(土) 新入会員オリエンテーション
 - 28日(月) 集委会員会
 - 31日(木) 婦人懇談会「総会」
- 今月の来室者三六二名
- 会員異動
- 退会者 三七一四 松木 忠雄 (52・3・)

- 七〇四八 鈴木 憲治 (52・3・31)
- 六六三四 柴田 恵介 (52・3・31)
- 七三七二 松村 雄 (52・3・31)
- 七〇一六 川副 栄子 (52・3・13)

*「支部だより」の欄を設けたいと思います。全国の会員にお知らせになりたいこと、行事予告と報告その他、各地のお便りをお待ちします。なるべく一回一支部15字詰50行以内をお願いします。締切りは発行月(毎月20日)の前月10日、山岳会事務局会報委員会宛。記事錯綜の場合は掲載月が変更になることがありますので、あらかじめご諒承ください。

*会報4月号の一部に、印刷所の手違いにより乱丁がありました。会員諸兄姉にご迷惑をおかけしました。

*引続き会報事務を担当することになりました。よろしく。

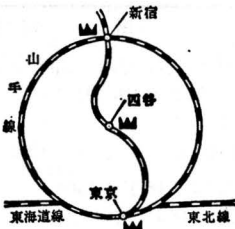
(会報担当・大森)

昭和五十二年五月二十日発行
113 東京都文京区湯島一六一
利根川商事株式会社ビル
発行所 法人 日本山岳会
発行者 今 西 錦 司
編集代表 大 森 久 雄
(813)二二八六(代表)

振替口座東京三二四八二九番
東京都港区赤坂一丁目三番六号
印刷所 株式会社 技報堂

登山・スキー用具専門店

山の店

大阪市北区梅ヶ枝町101
TEL. 06(362)5736●買いやすい
山の店●北へ来たたら
山の店●フレッシュな
山の店

四谷店 東京都新宿区三栄町三番地
TEL (351) 7432・1912
八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五
TEL (271) 1560・8575
新宿店 新宿ステーションビル四階
サービスショップ
TEL (352) 6564
日本信販加盟店



山友社 たかはこ

山とスキーの専門店

片桐

東京都文京区湯島3丁目38-9

片桐 盛之助

電話 東京(831) 1794・6680番



かたるべシンテイ
でんや 281-8456
中央区八重洲4丁目

秀山荘

登山とスキー具

イワタ

東京都中央区日本橋通2-1
PHON: 271-7686・1718

登山用具の専門店

好日山荘

東京店・中央区銀座3-5-7 (561)3600・(567)9031
東京店・中央区銀座3-4-6 (561)0966 スキー店
大阪店・北区曾根崎上一丁目47 (364) 0933 (代)
福岡店・須崎町1-4 (28) 3440



山の新聞

詩集 山の風物誌



伊藤秀五郎 A五判一四八頁 定価一四〇〇円
伊藤さんは自然科学者でありながら、豊かな詩心を抱いておられた。序詩として巻頭に置いた「草原の生きものたち」は病床で最後に書かれたものであるが、こうした寂しさと明るさの融け合った風景を、今も静かに眺めておられるように思える。…後記・装釘・串田孫一

日本女性マナスル登山隊報告書

マナスル1974

同人ユングフラウ

B五判カラー一六・白黒二四頁

本文二六〇頁 定価三四〇〇円

女性の可能性を追求した山好き

のグループが互に力を合わせて

その背後にある諸問題と対処し

ながら、紆余曲折の末実現させ

た日本女性マナスル登山隊の軌

跡と、これに関係した研究、調

査などを併せて集録した。

特製本在庫ご案内 (お求めは直接お茶の水店へ)
中坂本直行画文集▲雪原の足あと▼二五〇〇〇円
原画花の絵 (淡彩2号) 付

中加藤泰安▲森林・草原・氷河▼一五、〇〇〇円
中望月達夫▲遠い山近い山▼一九、〇〇〇円
中藤島敏男▲山に忘れたパイプ▼一九、〇〇〇円

坂本直行 山岳画(東京)展のご案内

会期 六月一七日(金)〜六月二二日(水)
会場 東急日本橋店六階ギャラリー

茗溪堂

■出版目録送呈 ■お買上げ、ご注文は最寄り書店をご利用下さい

〒101 東京都千代田区神田駿河台2の1 電話03-291-9442 振替東京8-24723